

## 4時から夢塾 「考え、議論する道徳授業」～一人一人の価値観を育む授業へ～

第10回「4時から夢塾」を9月30日(水)、長岡市立千手小学校校長の捧信之先生から、昨年に引き続き『道徳の授業改善』について指導を頂いた。「道徳の授業を何とかしたい」と、熱い思いで臨んだ受講者が多かった。受講後のアンケートに、若い受講者は「自分の道徳性の乏しさを感じた。もっと研修を積んで、子どもの心に残る道徳授業を目指したい。」と書いていた。簡単に講座内容を記す。



- 1 「考え、議論する道徳授業」とは…「価値を教える」から「一人一人の価値観を育む」ことである。
    - ・実践例『蝶の命蜘蛛の命』…蜘蛛の立場や気持ちになって考えてみよう。役割演技で「ぼくはこの後どうすればよいのだろう」の学習問題→話し合い活動「最終的な自分の考え」→心の成長作文(振り返り)
    - ・「教科書使用」…日常的に使うのはよいが、いつも同じパターンになる。年に一・二回は自作教材を。
  - 2 道徳的価値の三つの理解…価値理解・人間理解(分かっているても出来ないんだよなあ…)・他者理解
  - 3 道徳性を養う…道徳性は目標で、①道徳的な判断力②道徳的心情③道徳的実践意欲と態度を養うこと。
  - 4 主体的・対話的で深い学び…子どもの問題意識を動かす授業を→子どもと教師が学習問題を生み出す。
    - ・学習問題 ◎とは、子どもの問題意識→◎とは、子どもの思いを大切にす象徴である。
    - ・実践例『手品師』二つの意見の授業・判断の根拠となる資料提示→意見交換→最終判断・理由付け
  - 6 道徳科の評価…学習状況や、道徳性に係わる成長の評価をすること。道徳性が養われたか否かは容易に判断はできない。「～な心情が育った 態度が育った～な価値が理解できた」等は、言えないこと。
    - ・評価とは、子ども理解を深める営みであり、認め、励ます個人内評価をすること。
  - 7 主体的・対話的で深い学びを具現する最も基板となるもの
    - ・教師と子ども、子どもと子ども同士の信頼関係であり、温かいまなざしの中で授業が深みを増す。
  - 8 豊かで多様な学びに向けて…道徳科は価値ある心の体験をする時間
    - ・道徳科は自己の内面を見つめ、迷い悩む時間→漢方薬のように、じわじわきいてくる風土をつくる。
  - 9 まとめ…子ども自身が道徳の授業って面白いと思うからこそ、価値観は育まれる。
    - ・考え、議論する道徳への質的転換を図ることは、「思慮深い人間の育成」をめざすものである。
- <参加者の声>** ・“子どもの姿から見とる”ということが、どんなことにおいても大事であると改めて感じた。日常の姿から、その子の思案している行為一つにも大きな心の動きが見られる。その思いを汲み取り大切にす授業であったり、人間として、担任であったりしていきたいと考えさせられた。
- ・授業の作り方にいつも苦戦している。どうやったら子どもたちが議論でき参加できるのか…今回のお話で、進め方や根本的な授業の考え方をたくさんアイデアとして頂いた。明日からぜひ活用したい。
  - ・子どもが学習課題を自分事と捉え、考えを深めていく道徳は難しいと感じている。参考になった。
  - ・道徳は、子ども自身が自分の内面を見つめて、迷ったり悩んだりする貴重な時間だと感じた。また、他の子どもの意見を聞き、新たな視点を入れる良い機会だとも思った。今後の授業づくりに生かしていきたい。
  - ・価値観を押し付けることなく、問題意識を明確にし、解決するの考えさせることが大切だと分かった。
  - ・これまでは振り返りだけで評価をしようとしていた。じっくり考えて一行書く子どもの考える姿や、皆の前で発表しない子どものつぶやきなど、子どもたちの頑張っている姿に、もっと目を向けたいと思った。
  - ・評価をどうしていくかに、考えあぐねていたのので、「評価に落とし込む授業ではない」の一言に救われ、資料を熟読する中で、考え議論する道徳授業のあり方を整理して、実践につなげたいと思った。
  - ・講師先生の熱意に応える上でも…、もう少し長目の時間設定、シリーズ化なども検討して頂きたい。

